

中学校区におけるめざす子ども像 社会の中で人とつながり、よりよく生きる子

堺市立新檜尾台小学校
校長 古谷 俊之

<p>令和8年度 重点目標</p> <p>(1) 自立貢献～「探究」と「協働」をど真ん中に置く学校をめざす～</p> <p>(2) 具体的なめざす力・像</p> <p>育てたい力・・・考える力 批判的思考力</p> <p>めざす児童像・・・発想豊かな児童</p> <p>めざす教職員像・・・「良き伴走者」「つなぐ・つなが(げ)る」教職員</p>
--

<p>確かな学びの現状と今年度の基本的取組みに関する考え方</p> <p>今までの学校現場では、教科書の内容を網羅的に教えなければならないという固定概念が教職員に強く意識されていたが、2030年度学習指導要領改訂に向けて出された今回の論点整理では、「教科書『を』教えるから、教科書『で』教えるへ」という大きな転換が明記されている。具体的には、学習指導要領を「中核的な概念」を中心に構造化し、内容の精選を行うことで、授業時数にゆとりを持たせる方向性が示された。これにより、先生方は個別の知識の注入に追われるのではなく、子どもたちが概念を深く理解するための授業デザインに注力できるようになる。更に「調整授業時数制度」の創設が検討され、各教科の標準授業時数を一定程度減じ、その分を他教科や探究、学校行事などに充てることができる仕組みが示された。これにより、本校が従来の指導要領の中で苦勞して行ってきたカリキュラム・マネジメントが更に柔軟に出来る予定である。そのような状況下で本校では早速今年度より法律に準拠した形で授業スタイルを変える試みを行う。具体的には、朝の15分を「ひのチャレ」として計算や漢字等基礎力の徹底を行い、従来の45分授業を40分にして授業構成を考え直し探究的な学びとの融合を図る等工夫を凝らしながらカリキュラムマネジメントの推進を図っていく。</p> <p>昨今AIやチャットGPTが急速に進化し進む中、この3年間一定の基礎知識をベースにした上で「考える力」の向上を目指したが、今年度は情報化社会の実態を鑑み受け取った情報を鵜呑みにせず多面的に考える力いわゆる「批判的思考力」増強も加えた。「批判的思考力」は、実践を伴う探究力向上にもつなげ、特に総合的な学習を通じて児童が主体的に地域と考え・協働することを本年度更に進める。(新檜尾台オリブプロジェクト等)学校群としても「減災・防災活動」に取り組み 減災・防災教育の新たな進化、キャリア教育と融合した社会や地域での活動等を行う。また、「学びのコンパス・STEAM教育」推進にあたり、「総合」をキーとするカリキュラムマネジメントを意識した「つながる教育」を重視する。以上の実現を図るためにICTを駆使した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく行い、学校教育目標の実現 に向かって学びの実現に努力する。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状と今年度の基本的取組みに関する考え方</p> <p>「豊かな心」 特別活動(学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事)を充実することで、児童一人ひとりの心の醸成及び人間性の高揚を図る。望ましい集団行動を通じて心の調和と個性の伸長を児童同士、児童と教職員、児童と地域の方々と本校の特徴である「縦割り活動」や昨年から本格実施している「地域との協働活動」、特に人との交流体験を重視した心の醸成に今年度は更に力を入れて取り組む。縦割り活動は学校群での活動を通じた中学校との関係強化も視野に入ると共にこの3年間強化して良好な関係性が構築された幼保小連携の中における「豊かな心」の育成を行う。自分たちの住む社会や地域の実態を知り、進んで他の人々や集団、地域の活動を通じて地域に貢献したい園児・児童・生徒を増やし、将来の地域の担い手としての意識向上のきっかけとさせる。これらの活動により将来地域を担う一員としての自覚が生まれ、「地域を愛する心」の醸成に結びつける。「人権」はグローバル社会が進む一方、一部で分断化の状況が見られる状況下で日本人としての役割を意識させながら「人権」を発達段階別に深めさせる。「読書習慣の確立」と「ビブリオバトル」を通して人に伝える力・コミュニケーションする力の増進に取り組んでいく。</p> <p>「健やかな体」 体力向上検討会議のメンバー一校3年目として外部の有識者のご指導も得れるので小学校体育の本質の研究も視野に入れた活動を行う。更に体育の授業は、探究活動の宝庫として位置付けて児童同士の対話推奨し、安全を考慮した上での児童主体の授業を多く取り入れいく。探究の骨子は「一人ひとりに合った持続可能な運動の発見」とし、100年人生を意識した生涯に渡っての運動の意識化を小学校時代から育むことを掲げている。昨年度から取り入れている民間の幼・小学校体操教室を主宰している先生を定期的に招聘し、体育のカリキュラムに融合する形で「基礎体力・体と心のバランスを重視した健康体操教室」を実施する。縦割りを意識したなわとび活動の充実、校外的には連合運動会等全市民的な体育行事、地域での体育的交流行事、幼少連携体育行事等を企画或いは参加して、「健やかな体」の育成をめざす。</p> <p>「VUCA時代に生きる本校の子ども達が心身共に強く生きる少々わんぱくでたくましい檜尾っ子」をめざす子ども像とする。</p>
--	---

中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
							自己評価	学校関係者評価
探究・協働する子どもの育成 確かな学び	問い続ける子どもを育てる	<p>●総合的な学習の時間および生活科において、「問い」を軸とした探究的な学びの実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験や出会いを通して問いを生み出す導入の工夫 ・気付きや疑問を広げ、問いを深める学習過程の在り方 ・振り返りを通して次の問いへとつなげる指導の工夫に着目し、具体的な授業づくりについて研究を進める。 	各学期終わりに教員向けと児童向けのアンケートを実施し、年度末のアンケートで90%以上を達成させる。	児童観察 教職員アンケート	各学期末			
		<p>●本研究では、探究的な学びを充実させるために、中・高学年において週2回の探究の時間を設定し、それぞれの役割を明確にして取り組む。</p> <p>〈中学年：火曜日、高学年：木曜日⇒総合的な学習の時間〉</p> <p>学年や学級で共通のテーマのもと、体験活動や調査、対話を通して課題に向き合う。仲間とのかかわりの中で多様な視点に触れ、問いを広げたり深めたりすることをねらいとする。</p> <p>〈中学年：木曜日、高学年：火曜日⇒マイ探究(ラボ)〉</p> <p>一人一人が自らの興味・関心に基づいた問いを設定し、個別に探究を進める時間とする。自分のペースで追究しながら、学びを振り返り、問いを更新していくことを大切にする。</p> <p>これら2つの時間を往還することで、集団での学びと個の探究をつなぎ、「問いを生み出し、深め、問い続ける」学びの実現を目指す。</p>	各学期終わりに教員向けと児童向けのアンケートを実施し、年度末のアンケートで90%以上を達成させる。	児童アンケート 教職員アンケート	各学期末			

		●自主学习「ひのスタ」を週2回学校で統一して宿題として出す。また、ひのスタの質を高めるために、水・金曜日の宿題はひのスタのみにし、よいひのスタを紹介する取り組みを学校全体で行う。	各学期終わりに教員向けと児童向けのアンケートを実施し、年度末のアンケートで90%以上を達成させる。	児童アンケート 教職員アンケート	各学期末						
	基礎学習の定着	●朝の15分を「ひのチャレ」として計算や漢字等基礎力の徹底を行い、従来の45分授業を40分にして授業構成を考え直し探究的な学びとの融合を図る等工夫を凝らしながらカリキュラムマネージメントの推進を図っていく。	各学期終わりに教員向けと児童向けのアンケートを実施し、年度末のアンケートで90%以上を達成させる。	児童アンケート 教職員アンケート	各学期末						
	人に伝える力・コミュニケーションする力の増進	●「読書習慣の確立」と「ビブリオバトル」を通して人に伝える力・コミュニケーションする力の増進に取り組んでいく。	各学期終わりに教員向けと児童向けのアンケートを実施し、年度末のアンケートで90%以上を達成させる。	児童アンケート 教職員アンケート	各学期末						
	授業改善 授業力向上	★「総合的な学習の時間・生活科」等の研究授業や学校群での公開研究授業、また、研修授業をしない教員も全員が公開授業を実施することで、教員の授業改善を図る。	全教員が公開授業を実施。	実施報告	毎学期						
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	生徒指導の充実	学校評価児童アンケート「自分からすすんであいさつをしている」 学校独自アンケート「身の回りの整理整頓ができています」「廊下を歩いている」「授業始まりのチャイムで席に座れている」	学校評価児童アンケート 学校独自アンケート	年度末						
		★赤坂台中学校区 ランドデザイン 「めざす子ども像の育成」 低・中・高学年別集団による意識の向上	●児童会・学級会・「おおぞらグループ活動」(縦割り活動)を充実させ、自他のよさを認め合うことができるようにする。 ★学校群の児童生徒の約束の推進・活用 ★集団の中で自分と向き合い、積極的に自分の役割を果たし、他者とともに成長しようとする子どもを育てる。 ★自分の違いを認め合い協働できる子どもを育てる。 ★責任感と思いやりをもった行動ができる子どもを育てる。	学校評価アンケート「おおぞらグループ活動は楽しい」(児童)、「思いやりの心を育て、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」(保護者) 教職員アンケート 「子どもは集団の中で自分と向き合い、積極的に自分の役割を果たし、他者とともに成長しようとしている」 「子どもは自他の違いを認め合い協働できる」 「子どもは責任感と思いやりをもった行動ができる」	学校評価アンケート 新檜尾台・赤坂台両小学校 教職員アンケート	年度末 12月					
	道徳教育の充実	・年間計画に基づいた道徳の授業を実践・研究するとともに、保護者参観でも年1回道徳の授業を公開する。	全学級が参観で道徳授業を公開する	実践報告	毎学期						
	人権教育の充実	・年間計画に基づいた人権総合学習の実践を通して、他人を尊重し、仲間や友だちを大切にすることを育て、自分を大切にし、自尊感情が持てる子どもを育成する。 ・本校「いじめ防止対策基本方針」を全職員が共通理解し、未然防止・早期発見・早期解決に努める。	学校評価アンケート 「学級の仲間としてみんなから大切にされている」(児童)、「思いやりの心や感動する心などを育て、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」(保護者)	学校評価アンケート	年度末						

	特別支援教育の充実	・支援の必要な児童を把握し、適切な配慮や支援のあり方について共通理解を図りながら、特別支援教育の充実をめざす。	校内研修を実施し、実践に生かす	実践報告	毎学期						
		・全ての子どもに分かりやすい授業や誰もが過ごしやすい集団づくり、学習環境の整備をめざし、授業のユニバーサルデザイン化に努める。	校内研修を実施し、実践に生かす	実践報告	毎学期						
体力向上	健康・安全について理解し、積極的に運動に取り組む児童の育成	・体育の授業に加え、体力向上プランに基づき、体育版しんひのおだいスタンダードや毎月の目標から運動への意欲を高める。体力向上検討会議のメンバー校としての研究 ★学校群の取り組みとして土曜日中学校部活動への参加。	毎月チェックアンケート結果全項目90%以上	ふりかえりカード 児童観察 児童・教員向けアンケート	毎月末						
		・食育・保健指導を実施し、日々の生活について考える機会を設け、自らの健康への意欲を高める。	毎月チェックアンケートの結果・改善	実践報告 児童・教員向けアンケート	毎月末						
地域協働	開かれた学校 地域との連携	学校情報の積極的な発信	・学校ホームページ・校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	ホームページアクセス数昨年度以上 学校評価保護者アンケート 「学校からの文書や通信、ホームページ等の内容は分かりやすく、タイムリーである」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期					
		地域との連携	●「堺版コミュニティスクール」の組織をより強化し、教育活動、児童見守り活動等を支援できる体制とする。社会地域に開かれた学校を目指し、協働的活動の具体案として「新檜尾台小学校オリープの森」を活用する。地域住民の生涯教育も兼ね合わせた計画・実践を目指す。	外部人材を効果的に活用する 学校評価保護者アンケート 「家庭や地域と連携協力して子どもを育てようとしている」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期					
			●幼保小連携及び中学校区3校の学校群を意識した活動及び地域連携における活動の3つの取り組みを中心に実施する。	先ず教職員同士の話す機会を増やし、その上で相互の授業参観・公開研究授業参観や各行事に積極的に参加し、交流する	実践報告	毎学期					